

令和3年度競技別指導者養成講習会助成事業
実施報告書

| (愛知・大阪における知的障がい者スポーツ(水泳・卓球)の指導者の発掘とその養成) | | | |
|--|---|--|----------|
| 1. 競技 団体名 | 一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会 | 2. 報告者役職 氏名 | 会長：斎藤 利之 |
| 3. 期 日 | 令和3年11月27日(土)13時～令和3年11月27日(土)16時 | | |
| 4. 会 場 | 会場名：ウインク愛知 | | |
| | 住 所：愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 電話番号：052-571-6131 | | |
| 5. 実施 概要 | 実施対象 | 名古屋近郊で活動しているスポーツ団体の指導者及び特別支援学校の指導者等 | |
| | 受講者数 | スタッフ4人/受講者12名 合計16人(スタッフも関係者の為) | |
| | 事業の目的 ・目標 | <p>① これまで、知的パラ選手の人材発掘に関して積極的に活動してきたとは必ずしも言えず、全国に必要な情報を届けられているとは言いがたい状況にあります。その大きな要因として2つの事が挙げられ、1つは地域で活躍する卓球及び水泳の指導者が新たな人材発掘のための積極的な活動を実施していない事、もう一方は、中央競技団体が強化活動として取り組んでいる内容が地方に全く共有されていない事です。そのような視点から、地域で活躍する指導者に対して、強化・育成のための戦略や効果的な指導方法などを共有していきます。次年度以降は、陸上競技も含め、段階的に展開していきたいと考えています。</p> <p>② 指導上の対価として受け取る金銭の授受に関する適切な処理について、専門家より指導を頂きます。</p> | |
| 6. 運営 体制と スタッフ 等の 役割 | <p>■運営体制■ (事前) 2021年8月頃から、本格的に受講者の募集を開始しました。募集に関しては、地元で活躍して頂いている4名の方にお話し、上記の対象者を含む各関連団体に対して、詳細な説明などを文書と電話(LINEを含む)及びメールなどで周知しました。また、1ヶ月前にも斎藤が現地へ赴き、上記スタッフと当日の役割の確認や実地を含めた導線の確認および現時点での出席状況を把握し、十分な運営体制を整えることが出来ました。</p> <p>(当日) 当日は、講習会開始2時間前(11時)に集合し、当日の役割を再度確認しました。会場が比較的大きいため、以下の配置により参加者の誘導を行いました。</p> <p>スタッフA：ビル1Fの入り口 スタッフB：会場階のエレベーター入口 スタッフC：会場内受付(検温と消毒担当) スタッフD：会場内受付(出席確認) スタッフE(斎藤)：全体を統括</p> | | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>7. 実施内容 (タイムテーブルも記載ください)</p> | <p>以下の事項を含めて、事業として実施した内容を記載してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した事業プログラム内容 ・上記実施に関する周辺事業（事前の準備会議、実施報告、事前事後の広報等） <p>【タイムスケジュール】</p> <p>午前 11 時 00 分～午後 1 時 00 分 準備及び受付</p> <p>午後 1 時 00 分～午後 1 時 10 分 概要説明（ANISA より）</p> <p>午後 1 時 10 分～午後 1 時 55 分 ID 水泳連盟より（45 分）</p> <p>午後 1 時 55 分～午後 2 時 00 分 休憩</p> <p>午後 2 時 00 分～午後 2 時 45 分 ID 卓球連盟より（45 分）</p> <p>午後 2 時 45 分～午後 2 時 50 分 休憩</p> <p>午後 2 時 50 分～午後 3 時 50 分 大内税理士より（60 分）</p> <p>午後 3 時 50 分～午後 4 時 00 分 質疑応答</p> <p>今回の講習会は、ANISA として初めてとなる（外部の指導者を対象にした）人材発掘・指導者育成、そしてコンプライアンスの内容を主として実施しました。この事業は今後、大阪や他地域への展開も考えており、今回はその第 1 回目としての位置づけとなります。</p> <p>参加者は、特別支援学校の各教員及び元教員、又、地元で活躍するスポーツクラブもしくはスポーツ協会の方々など総勢 16 名の方々にご来場いただきました。</p> <p>プログラムは 3 部構成とし、まず第 1 部として ANISA（斎藤）から昨今の知的障がい者スポーツを取り巻く現状や課題の説明、そして国が進める「J-STAR プロジェクト」の紹介などを約 10 分にわたり説明しました。</p> <p>次に第 2 部では、ID 水泳連盟（谷口氏）および ID 卓球連盟（石川氏）の両強化担当者より、各 NF のこれまでの活動そして国際大会に出場するまでのパスウェイ(条件)などについて詳細な説明がありました。説明後には、参加者の多くから具体的な質疑があり、現場で活躍・指導されるの方々ならではの内容であったことは、お互いが課題を具体的に共有できる機会となり、改めて普及活動の大切さ、情報共有の重要性を再確認出来ました。</p> <p>最後の第 3 部では、今回から初めて導入された“コンプライアンス”の指導を ZOOM によって実施しました。担当講師より「不正をしない・不正をさせない」をテーマに行われ、スポーツ団体の実態に即した形で、より具体的な事例を取り交ぜた説明がありました。参加者にとっても新しい知見を得る事が出来、こちらも大変有意義な内容となりました。</p> <p>全体を通じて、今回の講習会（名古屋）は、集客も含めた準備が全てコロナ禍で行われたため、様々な困難がありましたが、無事に予定しておりました全てのカリキュラムを終えることが出来、且つ、参加者のみならず、講師からも有意義な講習会であったとお声を頂き、このような講習会を来年度以降も継続する必要性を改めて感じました。</p> |
|-------------------------------------|---|

| | | |
|----------------|--|---|
| 8. 事業実施の様子(写真) |  |  |
| | ① 参加者の様子 | ② 講師(谷口氏) ID水泳連盟 |
| 8. 事業実施の様子(写真) |  |  |
| | ③ 講師(石川氏) ID卓球連盟 | ④ 講師(大内氏) 税理士 |
| 9. 総評と反省 | <p>・講習会当日に、地元で大きなイベント(特別支援学校に関する)が実施されたこともあり、参加者の確保に非常に苦労しました。次回からはこうした情報も鑑みながら実施日を企画すると良いかと思いました。</p> <p>・J-STARプロジェクトとの関連から、開催日に関しても、測定日と連動するような配慮も必要ではないかと思いました。今回は、たまたま、この説明会のあとに、名古屋地区で実施されますので良かったのですが。</p> <p>・総評としては、「やってよかった」という一言に尽きます。コロナ禍で対面ではなくZOOMなどでの開催を考えましたが、やはり、対面に勝るものはなく、様々な課題や情報を得られたことは予想以上の収穫でした。</p> | |
| 10. 今後の取組 | <p>次年度以降も継続していく必要性を感じました。やはり、地方には全く中央の情報は届いていなく、指導者の育成、人材発掘など、こちらから出向いて情報を共有する大切さを感じました。</p> <p>次年度：九州地域・沖縄／次々年度：東北・北海道／次々々年度：四国・北陸を予定しております。</p> | |